

## 国際防災学会インタープリメント2000報告

丸 井 英 明

Report on the 9<sup>th</sup> Congress INTERPRAEVENT 2000

by

Hideaki MARUI

### 1. は じ め に

国際防災学会インタープリメントの第9回大会が、2000年6月26日より29日にかけて、オーストリア南部のケルンテン州フィラッハのコングレスセンターにおいて開催された。フィラッハでは1984年にもオーストリアの砂防100年を記念する第5回大会が開催されている。周辺地域には土石流危険溪流、地すべり・崩壊地、雪崩危険斜面などが多数存在している。歴史的には、1882年、1883年と相次いでこの地方を中心として空前の大規模な洪水・土砂災害が発生している。この大災害を契機として、1884年に当時のオーストリア・ハンガリー帝国の農務省所管の下で砂防行政機構が整備され、この町に帝国の南半分を統轄する最初の砂防行政組織が設置されている。

国際防災学会インタープリメントは、洪水、土石流、雪崩などによる災害の防止・軽減対策について学際的に研究し、技術・知識の普及を図ることを目的として、行政の技術者と大学などの研究者とが連携して組織された学会である。オーストリアの内外で1965年と1966年に相次いで甚大な洪水・土砂災害が発生したことを契機として、災害原因の究明と防災対策に関する意見交換を行うために、1967年にケルンテン州の州都クラークゲンフルトに防災関係の専門家が集まり第1回大会が開催された。1968年にケルンテン州の州政府河川水利局に学会本部が設置され、その後、ほぼ4年毎に大会が開催されている。インタープリメントは、当初はオーストリアの主導で運営されるアルプス地域の学会であったが、90年代に入って国際化を目指し、1992年には初めて国外へ出てスイスのベルンで第7回大会が、1996年にはドイツのバイエルン州のガルミッシュ＝パルテンキルヘンで第8回大会が開催されている。

### 2. 大 会 概 要

今回のインタープリメント2000大会への参加状況を見ると、参加者総数は388名で、参加国数は17箇国に上っている。ドイツ語圏からの参加が70%で、日本とイタリアからそれぞれ10%で、その他の国からが10%という内訳であった。日本からは36名が参加した。

大会は、6月26日から28日にかけて口頭発表が行われ、29日には9コース設定された1日行程の現地討論会が行われた。30日から7月3日にかけて北イタリアを廻るポスト・コンファレンス・ツアーが行われた。26日午前、大会は地元楽隊によるホルンの吹奏により開幕した。オープニング・セッションは農林省ラホイ砂防部長の司会で進められた。まず、主催者を代表してライポルト会長より開会の挨拶があった。さらに、農林省を代表して林務局長の挨拶、ケルンテン州政府代表の挨拶、フィラッハ市長の挨拶が続いた。その後、スイスの国立森林・雪・景観研究所のプロッキー所長が、山地における環境保全と調和した持続可能な土地利用のあり方に関してキーノート・スピーチを行った。

引き続き、災害の防止・軽減のための危機管理に関するパネル・ディスカッションが行われ、特に昨年の冬に発生した大規模雪崩災害に際しての危機対応のあり方に関する応答が注目された。

26日午後から始まった口頭発表は、全部で10のセッションからなり、第1、第2が洪水、第3、第4が地すべり・崩壊、第5が雪崩、第6が植生と土壌浸食、第7、第8が溪流砂防、第9が危険区域設定、第10が河川管理を扱ったセッションであった。日本からは、丸谷信州大学教授、石川京都府立大学助教授、木村岐阜大学助教授が口頭発表を行ったほか、武居京都大学名誉教授、水山京都大学教授、丸井がセッションの座長を務めた。

大会のプロシーディングスは全3巻からなり、総頁数が1212頁で全部で104編の論文が収録された。各巻の構成はテーマ別に以下のようにになっている。

第1巻 テーマ1.自然災害：総論(8編)

- 1.1.洪水(6編), 1.2.氷河湖(2編), 1.3.地すべり(13編)
- 1.4.落石(3編), 1.5.雪崩(9編)

第2巻 テーマ2.森林, 植生と浸食

- 2.1.森林と植生(11編), 2.2.浸食(4編)

テーマ4.危険区域(10編)

テーマ5.洪水防御(6編)

第3巻 テーマ3.溪流砂防(32編)

2日目の27日午後後半のセッションと並行して雪崩に関する分科会がもたれ、雪崩シミュレーションモデルに関する質疑応答が行われた。近年、アルプス諸国では大規模な雪崩災害が発生しており、乾雪表層雪崩の挙動を再現するシミュレーション手法が開発されている他、人工的に発生させた大規模表層雪崩の挙動や衝撃力の現地観測も行われている。

また、会場内のフロアで39のポスターが展示され、3本のビデオが紹介された。他に企業からの機器展示のコーナーも設けられ14件展示された。

1日行程の現地見学旅行が9コース予定された。その内8コースについては現地見学に引き続きセ



写真一 第3セッション「地すべり・崩壊」のディスカッション



写真-2 会場内、ポスターセッション及び模型展示

ミナーがもたれた。9コースの現地見学に対して合計262人が参加した。また、8つのセミナーに対して211人の参加があった。現地見学のテーマは「渓流域の持続的復旧」、「持続的な河川管理」、「地質的に鋭敏な溪流に関する諸問題」、「土砂管理」、「雪崩防災」、「落石防止」、「オーストリアにおける危険区域設定の実績」、「北イタリアVal Canale谷の工事防御と土砂管理」の9件であった。

### 3. 砂防行政官サミット

会議前日には開催地オーストリアが議長国を務め、ドイツ、スイス、中国、トルコからの代表の出席の下で砂防行政官サミットが開催された。日本からは、建設省の近藤傾斜地保全課長、藤原水政課専門官、仲野土木研究所砂防研究室長等が参加し、日本の砂防事業の概要を説明したほか、「土砂災害防止新法」の紹介を行った。また、会議2日目には、武居京都大学名誉教授を代表とする日本参加団主催の昼食懇談会を持ち、ライボルト会長を始め、インタープリメント役員、農林省ラホイ砂防部長、ウィーン農科大学ワインマイスター教授などの参加を仰ぎ、我が国の砂防の最新情報を提供し意見交換を行った。

### 4. お わ り に

今大会の会場において、さらに砂防行政官サミット会議並びに昼食懇談会の席上で、代表の武居名誉教授から「インタープリメント2002」の松本での開催が正式に表明された。幸い、多数の大会出席者から強い興味を示された。インタープリメントの大会がヨーロッパ以外の地で開催されるのは初めてであり、砂防あるいは防災の分野における日本の学問、技術を諸外国に対して発信する重要な契機と考える。日本でのインタープリメント大会の成功に向けて、関係各位に対し懇切な御支援を御願ひする次第である。

### 文 献

丸井英明 (2000) : インタープリメント2000報告, 砂防と治水, Vol. 33, No. 3, 135, 71-72.

Organisationskomitee INTERPRAEVENT 2000 (2000) : *Bericht*

土屋智・丸井英明・木村正信 (2000) : インタープリメント2000, 砂防学会誌, Vol. 53, No. 4, 231, 93-94.